

(様式2)

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600997		
法人名	有限会社 ケアハート		
事業所名	グループホームしあわせ広場 (しあわせユニット)		
所在地	新潟県新潟市御幸町4丁目3-1		
自己評価作成日	平成22年6月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成22年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・入居者様、ご家族様が安心できる介護・地域交流・自宅に居るように生活を送れるような支援をしている。・畑の野菜を使い漬け物などを作っている。・一人ひとりが自分らしく安心安全に生活していただけるようにしている。・レクリエーションの提供・家族のような暖かさ・ぬくもりで対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高齢者施設での勤務経験を持つ管理者が「より高齢者の立場に立った納得のいくケア」を実現するために、土地所有者の賛同を得て、平成17年に開設した。管理者の思いは建物の構造にも設備にも反映され、利用者が心地よく快適に生活できる環境となっている。職員層は幅広く、管理者は、若い職員のエネルギーや資格取得へのモチベーションを把握し、ホームの運営に活かせるよう努めている。</p> <p>職員は管理者の思いを受け止め、温かい家庭的な雰囲気作りに努めながら、「その人らしさ」を大切にきたケアを実践している。ホームの畑では季節の農作物を育て、利用者と一緒に収穫し、調理を行い、食事に関する一連の活動を楽しんでいる。また、日常的に外出機会を多く持ったり、利用者の趣味や嗜好に沿った活動を提供するなどしている。家族とのコミュニケーションも大切にしており、家族の要望等には直ちに対応している。家族からの信頼も厚く、家族と共に本人を支える関係がつけられている。</p> <p>ホーム周辺には、古くからある住宅に加え、新たに新興住宅が立ち並び、学校、ショッピングセンター、医院、公園等があり、生活しやすい環境である。町内会に加入して町内活動にも参加し、地域の一員としての役割を担っている。ホームでの餅つき大会や夏祭りは、地域にとっても恒例行事となっている。災害時における地域の避難場所としてのホームの活用についても運営推進会議等で検討しており、今後さらに地域密着型サービスとしての展開が期待されるホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>入居者様、ご家族、職員、地域を大切にしたい誰もが分かりやすい理念を掲げ、出勤時には各職員が唱え実践している。(各ユニット・玄関にも掲示し実践に活かしている。)</p>	<p>理念は、全職員に案を出してもらい、それを基に管理者と計画作成担当者がわかりやすい言葉でまとめたものである。職員は、出勤時に各々で理念を読み上げ確認するほか、日々のケアで疑問を感じた時は理念に立ち返って検討している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域行事の参加、隣近所との笑顔での挨拶。ホーム畑作業時は、地域の方からの声かけもある。時折、ホームイベントの際には声を掛け、交流の機会をもてるよう努めている。近所のコンビニには顔を覚えてもらい、会話が出来る。ホーム畑作業時は、地域の方からの声かけもある。</p>	<p>2か月に1回、ホームの広報紙を小中学校・医療関係・地域住民へ配布し、ホームへの理解浸透に努めている。さいの神や自主防災会、小学校の運動会などの地域行事に参加したり、地域の高校で職員が講師となり介護に関する講演を行うなど、交流を深めている。また、平成22年度から、保育園との交流も開始したところである。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の中学生の職場体験を受入れている。また、町内会老人会においてホームの紹介、高齢者介護の講演を行いつつ、広報で知っていただき、自由に見学できるようにしている。時折、地域の方が見学に来られます。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1回行い、取組み状況報告、検討、ホームから地域へ何か貢献出来る事、地域からの支援を話し合い、サービスの向上に活かしている</p>	<p>概ね2か月に1回開催し、ホームの取り組み状況の報告や、課題の検討などを行っている。利用者や家族には交代で出席をお願いしたり、年1回は会場を変えて、地域内の店舗等で開催するなど工夫している。会議での意見や提案は、具体的にホームの運営に反映されている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>何かあれば電話連絡、メールでの問合せをお互いに行っている。介護相談員の受け入れ。市主催の会議には積極的に参加しています。ホームの広報、運営推進会議、議事録提出等、市との連携の機会を設けている。</p>	<p>市の担当者には、ホームの運営について問い合わせたり、広報紙や運営推進会議の議事録を定期的に届けるなどして、連携に努めている。また、市の介護相談員を2ヶ月ごとに受け入れ、サービス向上に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が研修会に参加し、その情報を勉強会や会議でスタッフに説明し、理解を得るようにしている。年度研修計画に取り込み研修を行っている。また、そのような外部研修があれば積極的に参加するようにしている。現状としてスタッフが少ない時間帯は仕方なく窓とホール入り口のみ施錠している。	運営規定に身体拘束廃止に関する取り決めに明示している。外部研修に参加し、その内容を伝達講習として他の職員にも周知している。夜間のみ防犯上施錠しているが、日中は開錠している。	身体拘束をしないケアが実践されているが、身体的なものだけでなく、利用者の行動を制限するような言葉かけをしていないか、振り返りの機会を設けたり、マニュアルを整備するなどして、さらに理解を深める取り組みに期待したい。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者等が研修会に参加し、その情報を勉強会や会議でスタッフに説明し、理解を得るようにしている。また、年度研修計画に毎年、取り込みを行っている。入浴時等、身体の傷の有無を確認の他、スタッフ、入居者の聞き取りを行っている。	毎年度の研修計画に、虐待防止に関する内部研修を取り入れ、周知徹底を図っている。また、管理者は、利用者や家族にさりげなく聞き取りを行うとともに、職員の面談等で、負担感やストレスがケアに影響していないか注意を払い、防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部の社員は理解している。年度研修計画に取り込み内部研修会を行っている。現状としてはスタッフは大まかな内容は知っているが、詳しく理解できていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得してもらった上で契約をしている。疑問・質問は納得できるまで、何度でも説明している。契約後も随時相談があれば受けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られたり、電話連絡の際、こちらから苦情や相談、希望を聞くようにしている。アンケートBOXを設置し苦情、相談を随時受け付けている。	入居契約時や運営推進会議の際に、意見や要望はいつでも言ってほしいことを伝えている。面会時には、職員は積極的に家族とコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりをしている。また、アンケートボックスも設置している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見・提案を聞く機会を設けている。	法人の社長や専務も参加する全体会議を2ヶ月に1回、ユニット会議を毎月行い、相談や意見交換を行っている。また、管理者と職員との個別面談でも意見の聞き取りを行っている。職員の意見や提案は、できることから直ちに運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行い、ヒアリング等で努力や実践を評価している。現状として、全てのスタッフには伝わっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加に努めているが全スタッフが研修に参加できるにはなっていない。 内部研修は2ヶ月に1回行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全員ではないが、交流会やお互いの施設見学に行っている。 施設間での疑問点など随時連絡相談を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者様の日々の様子観察、見守り、日常会話に耳を傾けながらご本人様のとの会話もしっかり心に留めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡、面会時の機会を大切に相談に応じるように努める。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の話を良く聞き、GH以外のサービスも含め、相談にのっている。 ホームを見学して頂きユニットの雰囲気の説明し本人・家族に見ていただいている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から様々な事を学び、感謝の心を持ちながら接している。教え教わる関係を大切にしている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に報告する事はもちろんの事、家族と共に相談し考えながら良い関係を構築できるように努めている。	家族との懇親会を行ったり、夏祭りや新年会等の行事への参加を案内し、家族とのコミュニケーションを密にしている。また、本人との電話や面会等にも協力してもらえるよう家族に依頼し、共に本人を支え合う関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたり、行きつけの美容室に行ったりしている。 家族と外泊に行ったりしている。	馴染みの理美容院の利用や、自宅への外出・外泊、家族との温泉旅行など、本人や家族の意向を尊重しながら、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やソファの席など利用者の性格・役割を考え協力して生活が送れるように工夫している。 心配り・目配り等を行い努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設が変わっても様子を見に行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の言葉を考慮しながら、センター方式のアセスメントを使用し、意向の把握に努めている。	職員は、日々の関わりの中で本人の話に耳を傾け、希望や思いの把握に努めている。	今後さらに、センター方式アセスメントシートを複数の職員で協働で記入するなど、チームアプローチを意識しながら活用し、把握した情報をより一層介護計画に反映させていくことを期待したい。
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接時 本人・家族・ケアマネ・サービス事業者からの情報を収集している。	入居前に、本人や家族、これまで利用していたサービス事業者から情報を収集し、把握している。入居後も継続して聞き取りを行い、アセスメントシートに追記し、把握に努めている。	一人暮らしなどの場合は、例えば親類や民生委員等の関係者などからもアセスメントシートを活用して情報収集を行うなど、これまでの暮らしの把握に向けたさらなる取り組みを期待したい。また、職員が共有しやすいよう、シートの記載方法にもより一層の工夫を期待したい。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやスタッフ同士の情報交換により、総合的に把握すように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人等必要な人の意見を確認、考慮し介護計画に反映させている。	本人の希望、面会時や電話連絡の際に確認した家族の要望を踏まえ、本人主体の介護計画を作成している。アセスメントは、居室担当者が他の職員の意見も考慮して実施し、また、モニタリングは3ヵ月ごとおよび状態変化があった時は随時行い、その結果は計画に反映されている。作成した介護計画は面会時や郵送して家族に確認してもらっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う事があればお互いに報告し、プラン実行記録を毎日記録し計画見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の介助や買い物の代行など柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる歌や踊り、マジックなど随時受け入れ、消防署立会いの中、避難訓練や中学生、高校生の職場体験を受入れている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の協力医療機関、かかりつけの医院に通院・往診してもらい、適切な医療を受けられるようにしている。	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう配慮している。家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど、医療機関との連携を密にしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師も利用者の顔と状態を把握しており気軽に相談できる関係を築いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師やMSWと退院時期や入院中の状態変化等カンファレンスや電話連絡を通じ随時情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを目標にしているが、態勢が整っていない。 入所前に本人・家族にホームでできる事、できない事を十分に説明し同意を得て契約書を交わしている。	医療連携や職員体制が整えば看取り支援にも対応したい意向はあるが、現状では医療依存度が高くなった方への対応は難しい状況にある。そのため、ホームで支援できること・できないことを入居時に説明し、その都度、支援の方向性を本人・家族・医師と検討している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習・AEDを使った訓練を受け、マニュアルを作成している。 マニュアルはあるが、全スタッフが実践力を身に付けているとは思えない。	消防署からの指導のもと、年に1度、AEDの使用訓練・救急救命法の講習を行っている。夜間緊急時は、ホームの近隣に居住する3名の職員が駆けつける体制を取っている。	訓練は定期的に行われているが、新人職員の実践力が十分でない点とホームでは認識している。実際に起こり得る場面を想定した仮想訓練など、すべての職員が実践力を身につけられるようさらなる取り組みに期待したい。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、救命訓練は定期的に行っており、実践力を身につけている。	3月・9月に夜間想定避難訓練を実施している。平成22年度にはスプリンクラーも設置を完了した。地域との連携については、近隣住民や近くのコンビニエンスストアには既に協力を要請している。今後、地域の防災組織の立ち上げに向けて、運営推進会議で検討しているところである。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊重やプライバシーを損ねず、その人のために思いやりの言葉かけをしている。	職員は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を心がけ、さりげないケアや、自己決定しやすい言葉かけに努めている。個人記録は鍵の掛かる戸棚に保管し、慎重に取り扱っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた言葉遣いをし本人の気持ちを汲み取り尊重するように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の性格、生活歴など考えながら支援している。その方のライフスタイルを重視し無理な声かけはしない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの店があればスタッフ・家族がお連れする。 ホームに美容師が来てカットしてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に合わせて、盛り付けや刻み、調理をしてもらっている。 利用者の意見をしっかり聞くようにする。	ホームの畑で利用者と一緒に収穫した野菜を食材に使って一緒に調理をしたり、盛り付け・テーブル拭き・後片づけなどできることを共に行っている。食事も、利用者と職員が会話を楽しみながら、一緒に食べている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じ食形態をかえたり、糖尿の方には血糖値を考え、その人にあった量を提供している。 水分補給も寝る前もまめに行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをするように声かけをしている。 入れ歯の消毒を毎日行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパンツの方もこまめにトイレ誘導しオムツはずしができるように支援している。排尿のサインを見逃さないようにしてトイレ誘導・声かけをしている。	排泄チェック表を使用し、利用者個々の排泄パターンを把握している。尿量や時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・歩行・軽い運動・水分補給など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方の希望にて入ってもらっている方も居る。曜日・時間帯は決まっているがリラックスして入浴できるように心掛けている。	利用者に対して入浴についてのアンケートを実施し、希望の回数で入浴を行っている。毎日入浴を希望する方には希望どおりの対応をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファー・マッサージ機を設置し日向ぼっこや散歩など気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが理解している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事・外食・買い物・広告を見て食べたいものを食べたり、その人の能力を活かしながら食事の準備や掃除をしていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により欲しい物があつたら一緒に買い物や外食をしている。	天気の良い日には利用者と一緒に近くの公園へ散歩に出かけたり、食材の購入に出かけている。個別の希望による買い物も随時支援し、コンビニエンスストア等へ出かけている。また、花見や菖蒲見物など季節に応じた外出行事や、広告を見てラーメンを食べに行く等、積極的に外出を支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものがあれば購入し管理できる方には持たせている。 買い物に行き清算時に本人にお金を渡し好きなものを購入し支払いをスタッフと一緒にしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時には自由に事務所の電話を使用している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り物、折り紙など生活感と季節が感じられるように工夫している。	天窓や広い窓があり採光が良く、明るい。フロアの飾りつけは季節感があり、また、調度品も、利用者に馴染みの雰囲気のある使いやすいものを選んでいる。ホーム内では亀やカタツムリを飼育し、利用者が餌やりを楽しんでいる。気になる音や臭いもない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと座れるソファーに思い思いに過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ってきていただき、自宅に居るような布に気作りができるようにしている。	使い慣れたものを物を持ち込んでもらえるように、入居時に本人や家族に説明している。ベッド、タンス、家族の写真や装飾品が持ち込まれ、その人にとって居心地の良い居室づくりがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安心して生活できるようにしている。 一人ひとりできる範囲で無理せずやっていた季節の花を見て、お茶を飲んだり穏やかな生活が送れるよう工夫している。		